

「さあ共に主の山に登ろう！」

～主を見上げ続ける一年となるように！～

多くの異邦の民が来て言う。「さあ、主の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を、私たちに教えてくださる。私たちはその小道を歩もう。」それは、シオンからみおしえが出、エルサレムから主のことばが出るからだ。

ミカ書4章2節 [新改訳聖書]

新年明けましておめでとうございます！

2019年新しい一年がスタート致しました。イノシシ年ということで、ウリ坊がとても可愛いイノシシですが、イノシシの特徴はわき目もふれずに前に向かって進むことです。今年の私たちの信仰の歩みも目標、目当てとしてのイエス様から決して目を離さずにまっすぐに進み続けたいと願っています。

しかし、私たちの人生の歩みの中で、真直ぐに歩めなくする要因がいくつもあります。しかし、究極的にその原因を突き詰めていくと、イエス様に従うためにもっとも邪魔になるのは、「自分自身」であると感じています。

「誰でも、私に従って来たいと願うなら、自分を捨て、自分の十字架を負って私に従って来なさい」とイエス様はおっしゃいました。私たちはまず、「自分を捨てること」が不可欠です。しかし、自分を捨てるのが最も難しいことではないでしょうか？自分の願い、自分の望み、自分の好みがあって、私自身です。その自分を捨てるということは、自分を否定することになり、自分の存在が否定されることになります。

しかし、実は「自分を捨てる」ことよりもっと大切なことがあります。それは、「イエス様についていきたい！」と強く願うことです。大好きなものの目の前では、自分を喜んで捨てることができます。なぜなら、その大好きなものによって、自分が満たされているからです。

ですから、最も重要なことは何かというと、それは「イエス様にもっともっと出会って、イエス様をもっともっと大好きになる」ということです。

「キリスト教は宗教ではなく、キリストとの関係である」と言われますが、キリスト教、また、私たちクリスチャンにとって、イエス様とどれだけ深い、素晴らしい関係を築けるか？ということ以上に大切なことはないということです。

イエス様との素晴らしい関係があって、自分自身の人生を受け止めることができ、そして、隣人のために真に生きることができるようになる、そして、素晴らしい教会が建て上げられ、ひいては、素晴らしい社会がつくられるということになります。

今年、その世界を共に体験していきたいと願います。私たちは弱い欠けだらけの存在です。それだからこそ、主イエス様を求めることで、恵みへと変えられていくのです。